

NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション(GLEA)の
メールマガジン第172号をお届けします。ご意見・ご感想は<glea@npo-glea.org>まで。

◆今号の内容

1. トピックス
2. これからの活動情報
3. コラム『リーダーシップと勇気のある(Courageous)メッセージ』
伊藤忠商事株式会社 常務執行役員 広報部長 茅野 みつる 氏

1. トピックス

◆年会費のお願い

会費のお知らせをメールでお送りさせていただく予定です。
会員の皆様には、本年度もご協力のお力添えをいただけますと幸いです。

2. これからの活動情報

◆理事会・総会

6月に開催予定です。日程が決まり次第、ご連絡させていただきます。

◆第23回大学対抗交渉コンペティション

日時: 11月16日(土)・17日(日)
場所: 上智大学及びオンライン

3. 今月のリーダーシップ情報【コラム／column】

伊藤忠商事株式会社 常務執行役員 広報部長
茅野 みつる 氏

『リーダーシップと勇気のある(Courageous)メッセージ』

15年以上も前、野村美明先生からお声がけいただき、言語技術とリーダーシップについて執筆をしたことがある(https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/5897/18-1_n.pdf)。その小論文の中で、ドナルド・サル(Donald Sull)氏が提唱する「3C」を紹介したことがある。リーダーが使う良いメッセージには3つの「C」が含まれ、Clear(明快)で、Credible(信頼できる)で、且つ、Courageous(勇気がある)である、という内容だ。当時は「勇気がある」メッセージが何であるかあまり理解できなかった。しかし、2020年の春、コロナ禍のニューヨーク・シティに駐在し、人を動かす勇気のあるメッセージを幾度も聞く経験をした。

その中で最も印象に残っているのが、当時のニューヨーク知事であったクオモ氏のスローガン「New York Tough」(タフなニューヨーク)。世界の中心であるニューヨークという街もそこに住むニューヨーカーも、コロナごときには負けない、我々は強靱なのだ、というメッセージである。

20年3月、ニューヨーク・シティはコロナ感染者も急増してロックダウンとなっており、それまで大勢の人で賑わっていた五番街も人っ子一人いない状態だった。200室ある高層マンションがほぼ空き家になり、残された7室の1つに住んで在宅勤務をしていた私も大変に心細い思いであった。しかしクオモ知事が連日、昼にテレビ記者会見をし、一生懸命生きる人々（医療従事者など）を紹介したり、コロナ対策を発令しながら、我々はこの苦しい状況を乗り越える、なぜなら、我々はタフなのだから、と語る言葉には励まされた。

「New York Tough」というメッセージは、端的でClear（明快）。また、ニューヨーカーは過去にも911テロという惨事を経験しながらも、そこから立ち上がったタフさを考えるとCredible（信頼性がある）。

そして何よりも、コロナという未知のウィルスとの戦いが世界中で繰り広げられ、特に米国ではニューヨークでの被害が深刻になってきた初期段階に、「我々は負けない、なぜならニューヨーカーなのだから」と宣言し、具体例を示したことが、このメッセージを勇気のあるもの（courageous）とした。昔執筆したコンセプトが「ピン」ときた貴重な体験だった。